

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400012		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム万葉		
所在地	栃木県佐野市堀米町1336-1		
自己評価作成日	平成25年3月10日	評価結果市町村受理日	平成25年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域資源やご家族のご協力を得て、支援の枠を広げている。事業所の職員だけでは難しい事も、家族や利用者の要望があれば実現できるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅前の住宅街に同法人の各種施設が立ち並び、その中に当グループホームがある。近くには学校や保育園、公園があり子ども達と触れ合える環境である。地域との交流も多くボランティアに来てもらった。町のお祭りでは敷地内におみこしが入ってくれるなど地域に受け入れられている。職員は利用者を主役と考え満足してもらえるように日々支援に励んでいる。良い言葉使いから良いサービスが生まれるとして言葉使いには特に気を付けている。また新入社員研修時に講師を職員が務めたり、先輩が後輩の資格取得に協力したりと職員同士助け合いながらスキルアップを目指している。法人合同のイベントもあり利用者、職員、家族、地域の方と一緒に賑やかな行事となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「感動満足」を共有している。地域とのつながりを持つ事で理念に繋がるよう実践している。	職員は理念が書かれたカードを携帯し、全体会議で唱和をして日々の支援を振り返っている。カードには理念の他にも行動マニュアルが記載され、これに沿って常に利用者を一番に考え支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は住宅地に立地しており日頃の挨拶などで顔を合わせる機会も多い。	法人で自治会に加入している。祭事に参加したり女性会がボランティアに来てくれるなど地域と交流している。地域の方からは事業所が建ったことよって町が明るくなったとの声も聞かれる。米寿会・育成会・地域消防団や近隣保育園や託児所の子供たちとの触れ合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症サポーター研修の開催を提案したがまだ実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域資源についての情報を得たり取り組んだ事業についてさらに良くする為のご意見等いただいております、枠にとられないサービスの為に役立っている。	会議には市職員、地域包括支援センター職員、家族代表の他に町内会会長・女性会会長・消防団等の地域の方々が積極的に参加している。地域の方ならではの情報の提供や、知り合いのボランティアの方を紹介してもらうなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連携を取っている。	施設長は市に報告と共に意見や要望を伝え、積極的にコミュニケーションを図っている。市からは介護保険制度改正の連絡を受けたり、市の活動事業の協力を依頼されることもある。事業所のPRをして事業所の応援団になってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体安全委員会に委員が所属し、定期的な委員会活動や勉強会を開催している。身体拘束を含め玄関やエレベーターの施錠も行っていない。スピーチロック等の目に見えない拘束も行わないよう心掛けている。	法人で身体安全委員会が設置され勉強会や全体会議時に「身体拘束しないケア」について理解を深めている。多忙時には言葉による拘束が出やすいために気をつけている。外出傾向の利用者には散歩に付き合う等、一人ひとりに合った対応を検討し実行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体安全委員会に委員が所属し、定期的な委員会活動や勉強会を開催している。言葉使いにも注意を払い事業所内での虐待はないと言える。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で学ぶ機会を持ち、月1回開催される全体会議で研修に参加した職員が発表し活用に役立っている。現在あすてらすの利用があり月1回職員の方が訪問しているので、わからない事は教えていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約を行っている。十分な説明を行っているが、その後何か疑問点が生じた場合はその都度対応し説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見をうかがい、反映させるようにしている。ご家族や面会の方には積極的に話しかけご意見やご要望をうかがっている。ボランティア等の情報があつた時はすぐ実施に繋がるよう働き掛けている。	運営推進会議への参加時をはじめ、面会や通院のために来所される家族等に積極的に声かけを行い、意見・要望を聞いて検討し、実行できることから対応している。家族を通して利用者の意見や要望を把握し運営に反映させることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全員で集まる時間を作り意見を聞いている。施設長は毎日事業所に来て気軽に声かけして下さるので、その時も話を聞いていただいている。	施設長は職員とのコミュニケーションを大切に、声かけや問いかけを多くしている。職員の意見や提案はユニット会議の他、日常のケア中に出されることもあり、リーダーから管理者、管理者から施設長に伝わり運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施し自己評価の後代表者が評価を行っている。今後モチベーション向上の為に評価だけでなく目標を掲げるようにする事も取り入れていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で新人研修、中途採用者研修、認知症や看取りについての研修を行い参加している。外部研修にも積極的に参加しており、月1回開催される全体会議で参加者が発表し他職員が学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会が少なく参加していない。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には必ず本人にお会いしている。入居後は時間をかけて事業所での生活に慣れていただくき、同じように時間をかけて信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	金銭面、日常生活、家族関係等入居の際は様々な事情を抱えている。入居する事で不安が広がらず安心出来るようご家族への支援も必要といえる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内や関連会社で様々な形態のサービスを提供する事業所がある。グループホームだけでなく必要に応じて他事業所の利用を検討し紹介する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が主体となり利用者中心の生活を送っている。職員は利用者が不安や混乱なく暮らせるよう出来ない事やわからない事をサポートするといった姿勢で日々の業務にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常の様子をお伝えしている。認知症という事を受け入れられないご家族にも時間をかけて理解していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会に関する制限はない。送迎サービスを利用し行きつけの美容院に行っている方もいる。	友人知人が訪ねて来た際の対応を工夫したり、電話の取り次ぎをするなど馴染みの関係継続を支援している。また馴染みの美容院に家族が連れて行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体的な認知症の進行により理解力が低下した事と一部の方の重度化により全員で同じ場所・同じ時間を過ごす事は難しくなっている。職員が入りながら一人一人が不快な思いをしないよう関係作りに努めている。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に一度くらい連絡を取り退居後の事をうかがう場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症であっても発する言葉には本人の思いが込められている。そこから本人の思いを汲み取りケアの方向性を考える要素にしている。	一人ひとりの意向は会話の中から把握している。ふとした時に出る本音に気をつけ、理解するようにしている。コミュニケーションが上手く取れない方はよく観察することで行動やしぐさから気持ちを察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関しては入居の際細かくうかがっている。入居してからも以前の生活状況をふまえ混乱なく事業所での生活を送れるよう考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで生活出来るよう心掛けている。出来る事出来ない事を把握し過剰な支援をせず、今出来ている事が継続していけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人にとって最も良いと思われるケアを提供する為多方面から様々な意見をうかがい反映出来るようにしている。少々困難な事柄であっても状況を説明し何とか協力を得られる事もある。	職員はモニタリングを共有し定期的または随時、介護計画の見直しをしている。リハビリを計画に入れる際に「効果よりも生活に張りを持たせる事に観点を置く場合もある」等、あらゆる角度から見て最良の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は細かく記入している。少しの変化にもすぐ気づき対応できるよう本人の言葉や様子をありのまま残し、職員の意見交換にも役立てている。ご希望があればご家族に閲覧も可能である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲でご家族やご本人の望まれるサービスを提供しようと努力している。法人内の他事業所とも連携をとり合同でのレクレーションも行っている。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	人や物だけでなく地域資源を広く捉え利用者にとって良いと思われる事は取り入れるようにしている。今年度は保育園との交流事業を実施した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際主治医についてもご家族とよく話し合いをしている。基本的にはご家族に受診していただいているが説明が必要な場合などは職員が同行する。	入居前の主治医をかかりつけ医とし、希望があれば協力医に変えることも出来る。主治医が認知症の専門でなく対応が充分でない時は家族と相談の上、変更する場合もある。通院介助は家族の付き添いとしているが職員が同行する時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて1階のデイサービス、特養内の看護師と連携をとり利用者の体調管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は頻繁に病院に行き入院中の様子を把握するようにしている。退院後の受け入れについても病院関係者と相談し、施設での生活を継続出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	生活の延長上に死があるという考えであり、事業所での看取りも自然な事である。ご家族のご希望と主治医との連携があれば看取りも可能であり今までにも経験はある。重度化した場合も出来るだけ事業所での生活が継続出来るよう支援している。	終末期の対応については協力医による勉強会で職員に周知している。家族と主治医の協力が得られれば事業所は場所を提供する立場で支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については実践出来ている。その後の対応については管理者の指示で行うようにする場合もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年敷地内の特養やデイサービスと共同で避難訓練を行った。運営推進委員に地域消防団の団員がおり連携が取れている。運営推進会議でも毎回災害時の対応について話し合いをしている。	隣接する同法人の事業所と合同で年3回避難訓練を行っている。地域の消防団は間取りの確認に来たり、避難時のアドバイス等をしてくれ協力的である。法人で災害対策委員会があり職員は消火器やAEDの使用法を学んでいる。連絡網は自宅が近い職員が先に連絡を受けるようになっている。	合同の訓練の他にも事業所独自の避難訓練や訓練方法の工夫を考慮し、消防団や女性会に加え地域の方の参加・協力の呼びかけを行うことに期待したい。

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬い尊敬する気持ちと大切なご家族をお預かりしているという責任感を持つ事を職員には伝えている。すべての職員はそれを自覚しており対応については申し分ない。	一人ひとりの生まれ育った環境や職業等これまでの人生を尊重した対応をしている。話しかけられたら立ち止まり手を止めて話を聞いたり、顔を近づけて話をするなど何気ない動作も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日のうち少しでもゆっくり過ごす時間を設ける事で話しやすい環境を作る。入浴時職員と1対1になるので話しをする事も多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の決まり事はあるが一人一人のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所に来て下さる理美容室を活用している。日常の整容については職員と一緒に行う場合が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	不定期で食事作り、週1回おやつ作りを実施しておりその時は利用者と職員と一緒に準備を行っている。普段の食事の際は主に職員が作業を行っているが、盛り付けや提供に配慮し味以外でも食事を楽しめるようにしている。	献立は管理栄養士が考え、調理スタッフが厨房で調理した物を事業所のキッチンで盛り付けている。栄養だけでなく食感や見た目にも工夫している。職員は会話を楽しみながら一緒に食事をしている。誕生日には個別に外食に出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、1日の水分摂取量は所定の用紙に記録している。管理栄養士がおりバランスのとれた献立を提供している。咀嚼状況に応じて細かく刻んだり柔らかく煮込んだりし食べやすい工夫をして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	キッチン内に口腔ケアが出来る場所があり、支援が必要な利用者はそこで行っている。口腔ケア委員会に委員が所属し学ぶ機会もある。		

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在はオムツの使用はなく9名全員トイレでの排泄が出来ている。排泄行為は細かな行為の積み重ねであり、その中で出来ない部分を支援する事で排泄の自立に繋がっている。	排泄チェック表を活用し様子を観察して、さりげなく声をかけてトイレに誘っている。排泄の一連の動作の中で介助は出来ない部分に留め、出来る動作を大事にしている。失敗した時も周囲に配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用は出来るだけ控えている。法人で農園があり食事には野菜を多く提供している。週1回ヤクルト販売を活用しており乳酸菌飲料を摂取出来る。甘味料としてオリゴ糖を摂っている方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず希望のある方が入浴出来るようにしている。毎日決まった時間に入浴している方もおられる。拒否のある場合は強制せず足浴など行っている。主治医やご家族に入浴の必要性を言っていたり協力をお願いする場合もある。	本人が入浴したい時に入浴可能である。入浴拒否の方には無理強いせず主治医の言葉を借りて健康面から入浴を勧める等の工夫をしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節の入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで生活しているので休憩時間も自由となっている。事業所で用意した寝具の他持込も可能である。リネン類の交換は職員が週1回行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更時等は職員に周知情報を共有している。内服による症状の変化が生じた場合には主治医と連携をとり対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日新聞を読む、決まったお手伝いをする事などを日課にしている方がおられる。行事予定を書き込むボードを目につく場所に設置し活用している。医療面で制限のない方には好みの食べ物や飲み物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	様々な事情があり全員での外出は出来なくなっている。個人やご家族のご希望に添った外出を多く行っている。買い物や外食といった日常的な場所のほか、ご家族のご協力もあり生まれ故郷の海を数十年ぶりに見に行った方もおられる。	お買い物や散歩などの日常的な外出のほか、お花見など行事の外出もしている。また、家族だけでは不安な遠出の外出も職員と家族が協力し合って実現させている。どんな希望にも対応出来るように職員は努力している。	

グループホーム万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っている。買い物等に行った場合はご本人に確認し職員が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由に出来る。本人が出来ない場合は職員が手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた色調で統一された室内になっている。利用者がスイッチを操作する事があり照明は少し暗めになっている。室温は空調でコントロールしてあり加湿器も2台設置してある。共用部分はすべて広く使いやすしい造りになっている。	リビングには大小のテーブルやソファがありそれぞれお気に入りの場所に座り寛いでいる。廊下も広く車椅子での移動がしやすい他、外の風景を眺められる休憩スペースもあり、個々のペースで生活できる工夫がされている。部屋全体が落ち着いた印象で外部からの騒音もなくゆったりとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを多く設置し好きな場所で過ごせるようにしている。食事やお茶の時間も全員揃ってという事は強要していない。一人一人がくつろげる空間作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所で用意した物の他は必要に応じて持ち込みとなっている。室内の配置も自由である。物がある事によって生活に障害や危険が生じた場合はご家族に相談し物を減らしていただいた事もあった。	造り付けの収納があり、すっきりと片付いた部屋になっている。本人や家族と相談して馴染みの物や思い出の品を自由に持ち込んでいる。本人の状況によって物が無いほうが良い場合もあるのでそれぞれの利用者に合わせて部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置がある。不必要な物は置かない事で安全な生活が出来るようにしている。		